

### 神社の清掃を 続けること五十年

長者町の松本好太郎さん（八十三歳）は、五月二十日、第二十六回富士環境衛生自治推進協会の総会で環境衛生改善活動功労者として表彰されました。

松本さんは五十年以上にわたり、毎朝、地域の神社の清掃を行ってきました。大変元気で耳が遠いほかは言うところがなく、今では掃除も健康法の一つに。「もともとは子供が弱かったので始めたよ。おかげで私も家族も丈夫でありがたい」と感想を述べてくれました。



松本好太郎さん



古代人も苦勞したね

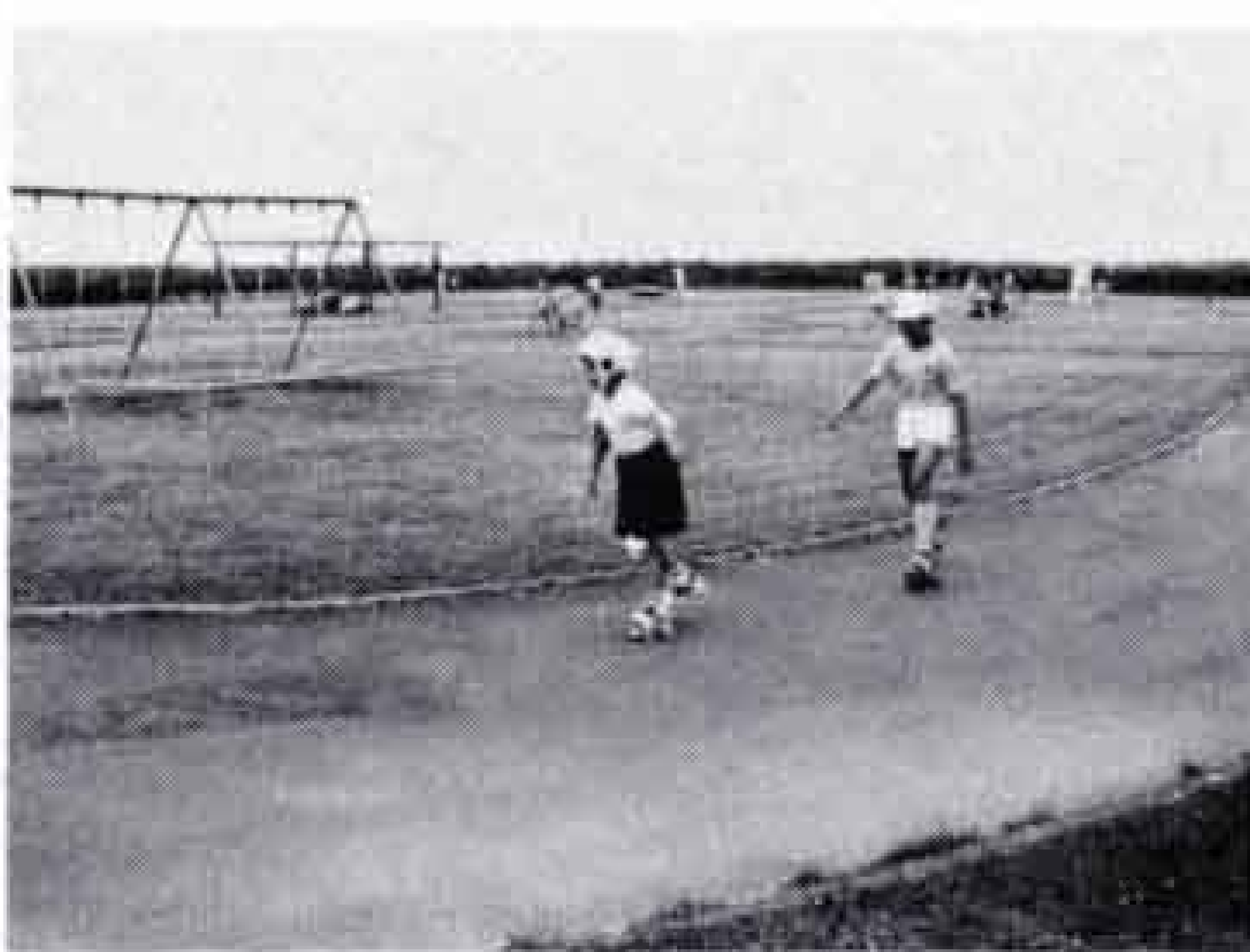
### 縄文時代を体験 吉永一小で土器づくり

五月十九日、吉永第一小学校の六年生は、縄文式土器づくりに挑戦しました。これは、社会で勉強した縄文時代の生活を体験しようと、昨年から行われています。

粘土と赤濁川の砂をまぜ、よくこねて、土器の形をつくりました。粘土の厚さや模様づけが難しく、子供たちは、しばし古代人の苦勞を味わいました。その後二週間かけて乾燥し、焼き上げました。

### 富士川緑地で ローリースケート

ローリースケートやスケートボードが小・中学生の間ではやっています。子供の「お母さん、買って！」の声に負けて、買ってあげたものの、「すべる場所がなくて交通事故が心配」というのが親心。そこで、お勧めする場所が、富士川緑地の中央にある児童遊園。芝生で囲まれたアスファルトのコースがあり、子供なら十分楽しめます。日曜日に御家族どうぞ。



ここなら安心して思いっきり  
できます



### 連帯感と誇りある郷土づくり

滝川椿田線地域活性化有志の会の皆さん

「自分の生まれたところから活気がなくなるのを見ていられない」と、地味ですが独自の活動を続けているグループがあります。今回はこの「滝川椿田線地域活性化有志の会」の皆さんにおじやました。

原田小学校南の道を東に進むと、季節の花の咲く白いフラワーポットが目に入ります。このフラワーポットは古タイヤを利用し、すべて手づくり。滝川椿田線地域活性化有志の会の皆さんが地区の協力を得てつくったものです。

中心メンバーは床屋の後藤和幸さん、郵便局の鈴木正邦さん、酒屋の林利昭さんの三人。地元で生まれ育った皆さんです。

きっかけは「去年の春、三人で飲んでいるうちに、いつの間にか寂しくなってきた通りを何とかしようということになった」と鈴木さん。

ですから、会の雰囲気は「地域活性化有志の会」というかた苦しい名前とは裏腹にざっくばらん。活動は月二・三回、都市計画道路や地域の話題を勉強してきました。

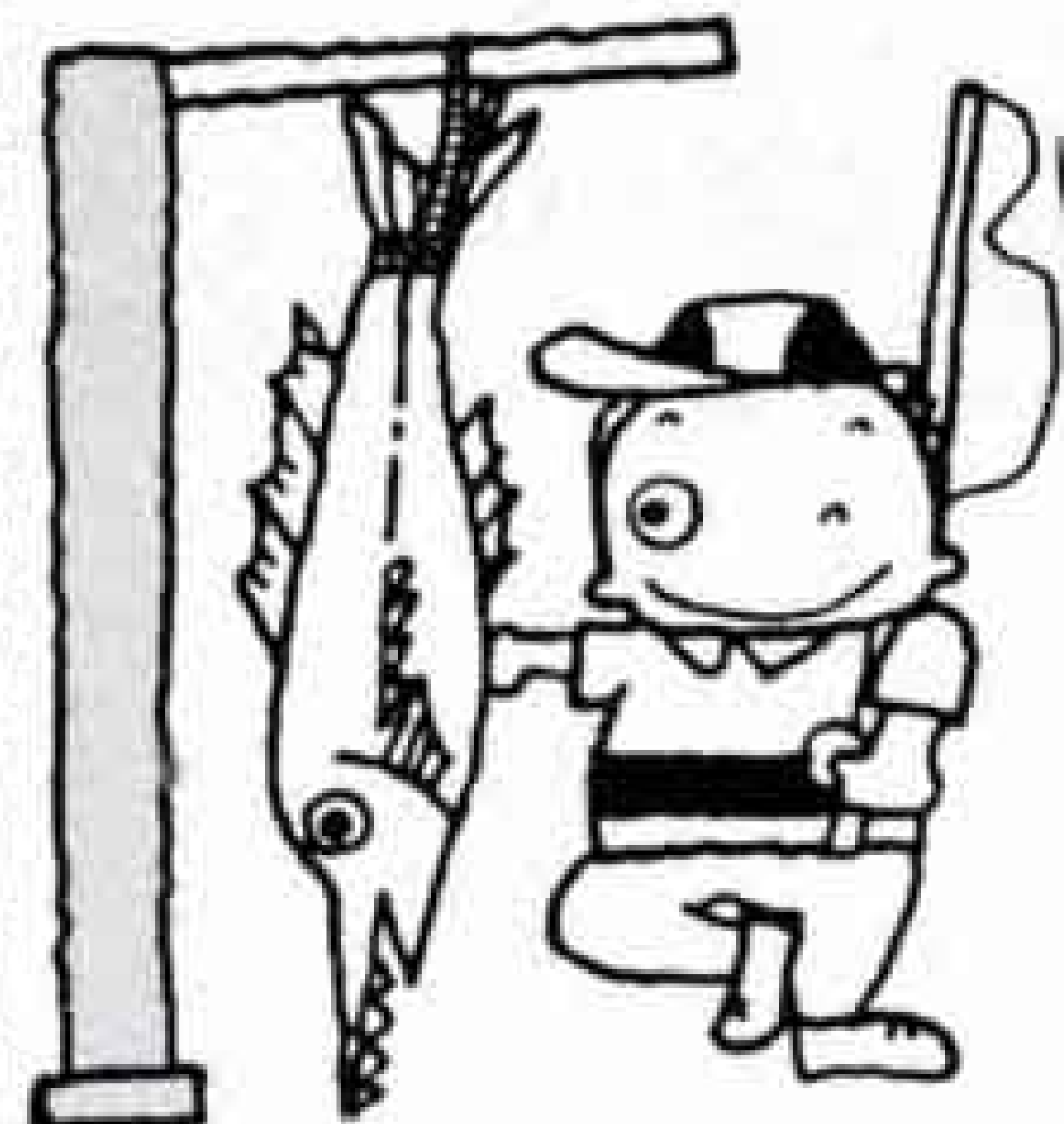
そして、とりあえず出した結論は、だれもが自分の郷土を誇りに思い、連帯感のある街づくりに向けて行動を起こすという



△フラワーポットを囲んで、（左から）林さん、後藤さん、区長の池田さん、鈴木さん

### 富士市のギネス

# No.1



百トンのテトラポット



### テトラポットの大きさ

田子の浦海岸にあるテトラポットは重さが50トと100ト、高さが4.3mあり日本一の大きさです。

もともと、田子の浦港周辺の海岸は、富士川水系からの排土砂で形成され、太平洋の荒波を直接受けて顕著な漂砂現象をみせていました。

ところが、漂砂の補給源の枯渇などにより、海岸の浸食が年々進みました。

そこで、昭和46年に「田子の浦海岸浸食対策研究会」が設けられ、討議の結果、世界でも初めてと言われる50トテトラポットによる離岸堤工法が採択されました。翌47年度から製作され、現在では根固め用として100トテトラポットもつくられています。